

## <会員による自著紹介>

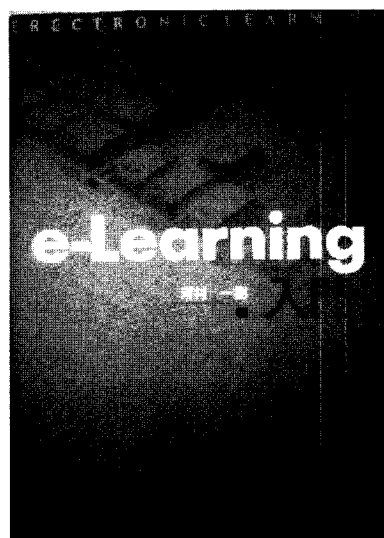
# e-Learning 入門

河村一樹 (著)

東京国際大学

大学教育出版 (2009 年発行)

定価 1,890 円 (税込)



e-Learning は、「電子的な (electronic) な学習 (learning)」であり、ICT (Information and Communication Technology) を用いて行う学びのことである。e-Learning という言葉が生み出された背景には、「教育の情報化」と「情報 (の) 教育」がともに求められるようになってきたという経緯がある。前者ではコンピュータ支援による教育の実現や教育現場における ICT の整備などが、後者では情報教育の体系化や教授法の開発などが、それぞれ進められてきた。そして、今日では、教育業界においても e-Learning に関する様々な試みが展開されている。

本書は、e-Learning の技術的な側面だけでなく、e-Learning の利活用に取り組んでいる各教育業界の現状やその経緯についても取り上げている。第 1 章では、e-Learning に至るまでの教育情報システムとしての処理形態の変遷について取り上げる。第 2 章では、e-Learning の言葉の定義を行うとともに、e-Learning の構成要素に関する専門用語を取り上げる。第 3 章では、e-Learning を情報教育システムとして捉え、その基盤となるプラットフォーム (LCMS, LMS, LSS) および技術的な標準規格について取り上げる。また、e-Learning において学習コースや教材コンテンツを開発する際の指針となるインストラクショナルデザイン (ID)、および、e-Learning システムの製品事例として日立電子サービス(株)の HIPLUS、についても取り上げる。第 4 章では、各教育現場 (初等中等教育、高等教育、企業内教育、生涯教育) における教育の実情と e-Learning の活用といった視点から比較しながら具体的に取り上げる。第 5 章では、e-Learning 業界として、教育産業ベンダとその事業内容、それらに関連する専門家としての職種と資格について取り上げる。

現在、大学においても e-Learning を積極的に導入し、教育活動に利用する場面が増えつつある。とくに、初年次教育において e-Learning を活用するケースも目立つ。大多数の学生を扱うことが多い初年次教育における e-Learning の利用は、効率的な学習効果の達成を実現できる。そういった意味からも、今後とも e-Learning の導入・利活用を広めていきたい。